ほっとTタイム

高崎の観光力

市民と市長が高崎のさまざまなテーマで語り合う「ほっとTタイム」。今回のお相手は、榛名観光協会の小林信彦さんと群馬県達磨製造協同組合の今井裕久さんです。「高崎の魅力を全国に発信」をテーマに、昨年行われた観光キャンペーン「群馬DC」の感想のほか、これからの高崎の観光について伺いました。

撮影場所：JR高崎駅構内「群馬いろは」

今井 裕久 さん

「今井だるま店」代表。群馬県達磨製造協同組合の理事を務める。

地域のブランドをどうやって活用していくかが重要です ——今井さん

市長　昨年開催された観光キャンペーンでは、県内外からたくさんの人が高崎を訪れ、大変にぎわいました。スタンプラリーの景品として今井さんが作られた「機関車だるま」は、特に人気がありましたね。

今井　ありがとうございます。当初は限定1000個の予定でしたが、最終的には約1万個を出荷しました。想像以上の反響でした。

市長　私も初めて見た瞬間に欲しいと思いましたよ。この黒が力強くて素晴らしい。しかし、だるま作りという歴史ある伝統工芸を守り続ける中で、新しいことに挑戦するのは苦労もあるんじゃないですか？

今井　そうですね。200年間続いてきた伝統的な赤いだるまがあってこそ、創作だるまが生きてくるんです。最近では、なでしこジャパンやロンドンオリンピック日本代表を応援するだるまなどを作り、好評をいただいています。中心となるのは赤いだるまですが、伝統的な物と新しい物が、互いにいい影響を与え合うようにしていきたいですね。きっかけはどちらであっても、まずは実際にだるまに触れてもらうこと。そこからだるまの歴史や魅力、生産量日本一を誇る高崎に興味を持ってもらえればと思います。

市長　榛名は今や高崎最大の観光地となっていますが、小林さんは榛名湖の観光協会でどういった活動をされてきたのですか？

小林　榛名湖だからこそできるイベントを、地域全体で協力して作ってきました。中でも夏の湖上花火大会や冬のイルミネーションフェスタは、おかげさまで毎年たくさんのお客様に来ていただいています。

市長　観光というのは、資源としての魅力はもちろん、地域の人の支えがあってこそ成り立つのですね。

小林　冬のイルミネーションは観光協会の中でも若手の青年部が中心となって頑張っています。群馬DCでは、レーザー光線を使った「榛名湖天空ファンタジア」を開催し、約3万人の方に足を運んでもらうことができました。今年もさまざまな催しを準備しています。

全国のナンバーワンよりもオンリーワンの地域を目指して ——小林さん

市長　小林さんは榛名湖を売り込むために全国を営業で回られているそうですが、県外での高崎の印象はどうですか？

小林　残念ながら高崎というより、群馬県自体が知られていないことが多いですね。もっと外へ向かって情報を発信する力を持たなくてはいけないと、いつも感じています。

小林 信彦 さん

榛名観光協会榛名湖支部長、群馬県観光施設協会副会長を務める。

市長　今度「榛名ヒルクライム」という自転車レースを榛名地域で開催しようと計画しているんですよ。それで、レースが終わった後にも榛名湖畔を散策したり、高崎のまちなかに来て食事をしたりしてほしいと考えています。

小林　私も今から楽しみです。地域を挙げて来場者をお迎えしたいと思います。今井さんのだるまのように、榛名の観光事業も地域の特徴を生かしたオンリーワンを目指します。

市長　市町村合併を経て、高崎にはいい観光スポットがそろいました。それは素晴らしい財産ですが、「高崎で1日遊べる」という感じにはならないですよね。「食」や「買い物」を組み合わせるなど、高崎を楽しんでもらう工夫をしないといけない。

今井　そうですね。それには、観光地に行くだけではなく、「そこで何ができるか」を考える必要があると思います。例えば、榛名湖の自然の中でキャンプやスポーツのほか、だるまの絵付け体験や、地域の特産品を使ったお菓子作りもその場でできるというように、高崎ならではのものを集めて、来た人に選ぶ楽しみを提供するのもいいんじゃないでしょうか。高崎の魅力が一か所で一度に味わえるような。

市長　それは面白いですね。私は、榛名湖畔は静かな雰囲気も魅力の一つだと思っています。観光化を進めて人を呼ぶのもいいけれど、本来の味がなくなってしまうといけない。そのバランスが難しいですね。

富岡 賢治 市長

高崎の景色を生かして、楽しみながら食事ができる場所づくりを構想中。

高崎を盛り上げるという点でみんな同じ方向を向いている ——富岡市長

市長　お二人のこれまでの経験から、高崎の魅力を全国に発信していくにあたって何かいいアイデアはありますか？

今井　だるまの販売について言えば、インターネットで海外からの注文も増えています。企業の展示会などでだるまを使ってもらう機会もあります。そういうチャンスを生かして高崎のイメージを世界にも広げていきたいですね。

小林　広くなった高崎にはたくさんの観光資源があります。それぞれの地域がもっと交流し、いいところを出し合って連携した事業ができれば、新しい観光の目玉になると思います。

市長　みんな「高崎を盛り上げよう」という点で同じ方向を向いているから、各地域の伝統や独自性を生かして協力できる仕組みが必要ですね。今後も協力し合って頑張っていきましょう。本日はありがとうございました。

小林・今井　ありがとうございました。

榛名湖を彩る湖上花火大会

パワースポットとしても人気の榛名神社

●群馬 DC
（群馬デスティネーションキャンペーン）

昨年7月～9月の3か月間、群馬県の魅力を全国に発信するために県と県内自治体、JRグループが一体となって取り組んだ大型観光キャンペーン。本市では、3両のSLが集合した「列車出発式」や「まちなかスタンプラリー」などを開催した。